

行って来ました！‘わんりい’企画・陝北の旅・報告その-I

橋詰 滋

学生時代に第二外国語で中国語を学習しはじめたことにより、中国への関心が深まり、かれこれ20年くらい。中国への旅行も、北京、上海、蘇州、大連、成都など、ガイドブックに載っているようなメジャーな観光地を何度か訪問をしました。「そろそろ、あまり日本人が行ったことがないようなところに行ってみたいな」と、考えていたところ、『わんりい 4月号』に「陝北黄土高原の旅」に関心をお持ちの方へ」という案内を発見！早速、企画者の田井さんに「是非行きたい」と申し出してみました。

当初は大勢の方が参加される予定(?) でありましたが、最終的に下記の5名の参加となりました。

成田出発組: 柳田氏(会員)と奥様、橋詰(会員)

関空出発組: 浪花氏(会員)と友人の槇野氏

【旅行の予定(当初)】

9/22(土)	関空組、関空→西安(MU2298) 成田組、成田→西安(MU521) 西安空港近くで宿泊
9/23(日)	黄陵→延安市内の棗園→延安泊
9/24(月)	延川県の黄河博物館→乾坤湾→小程村泊
9/25(火)	乾坤湾→清水湾→文安驛泊
9/26(水)	文安驛古鎮→高鳳蓮芸術博物館→西安泊
9/27(木)	兵馬俑→華清池→秦始皇帝陵→西安泊
9/28(金)	成田組、西安→成田(MU522) 関空組、西安→関空(MU2059)

右上に掲げます地図に、この旅の訪問地を記入してみました(手作りのため、位置関係が若干異なっていることをご了承ください)。

主に、陝西省の北部、いわゆる陝北地域を巡るものになります。陝西省の省都であります西安市から北へ300kmに位置します延安市を中心とする地域を回るものになります。



★1日目(9月22日)

いよいよ全6泊7日になる旅の始まりです。前日の夜は、学生時代以来の久しぶりの大型の海外旅行(当方は社会人であるため、長期休暇が取りにくい)にワクワクして、夜はほとんど眠ることができませんでした。しかし、こんな状況でも朝は、何の苦勞もなく起きることができるものです。

10時半に成田空港に向けて自宅を自家用車で出発。途中横浜市内にて、柳田夫妻をお迎えし、一路、東名高速、首都高速、東関東自動車道を経て、途中の首都高速の渋滞に巻き込まれながらも、正味3時間半の運転で成田空港に到着。空港のチェックイン及び入国審査等はスムーズに進み、2時間くらい時間をもて余したので、空港内の銀だこでたこ焼きを食べつつ、今後1週間飲むことがないであろう日本のビールで乾杯をしました。また、

西安でお世話になります中青旅山西国際旅行社の黄氏、運転手の張氏へのお土産として、北海道名物のじゃがポックルを購入しました。

こうして、空港での待ち時間はあっという間に過ぎ去り、我々は中国東方航空MU522便に搭乗し、定刻の16時55分よりも少し早く出発しました。この便は、名目上、西安行きの直行便ですが、実は上海を経由する「経由型直行便」という、ややこしい便であります。19時5分に経由地の上海浦東空港に着き、一旦、乗客は目的地が西安、上海を問わず、全員降ろされ、入国審査を受けることとなります。我々は入国審査、そして国際線と国内線の連絡通路を経て、国内線となったMU522便に再搭乗しました。上海についてから、ここまで約1時間半、休む暇がなく、MU522便は、21時に西安に向けて出発しました。

23時過ぎに無事、我々は西安に到着しました。夜遅くにも関わらず、山西省国際旅行社ガイドの黄氏が空港に迎えに来られ、我々を空港近くにある陝西省空港大酒店まで案内をしてくれました。こんな夜遅くにお仕事をさせて、本当に申し訳ありませんでした。我々のこの日の長い移動は無事終了しました。

なお、浪花氏とその友人の榎野氏は、関西国際空港から出発し、我々よりも先にホテルにチェックインをし、すでにお休みにいられていると思われましたので、両名への挨拶は明朝にすることとしました。



黄帝陵

★2日目(9月23日)

前の晩は遅い到着であったにも関わらず、目覚めは早く、早速朝食会場へ向かいました。

朝食会場にて、どこからともなく、関西弁が聞こえてきましたので、近づいてみると、やはり浪花氏と榎野氏でありました。私は両名に、昨晚でできなかった挨拶を済ました。

両名の話によりますと、関西国際空港が台風22号の影響で、タンカーが連絡橋に衝突したため、空港機能がしばらく停止していましたが、ようやく出発の3日前に利用可能となったとのこと。もし関空が回復しなかったら、今回の旅行をキャンセルすることになったかもしれないため、本当に冷や冷やものだったとのことでありました。

5人となった我々一行は、9時にホテルを出発し、この日の最初の目的地である黄陵に向かいました。ガイドの黄氏は、日本語が大変流暢なため、まるでここが中国であることを忘れさせるような感じでした。また、御年61歳にも関わらず、軽快な足取りで、肌もツヤツヤであるため、とても若々しい印象でした。

西安市内を抜けて30分もしないうちに、周りは荒涼とした黄土で形成された景色に変わってきました。以後、この風景が何百キロも続くため、そのスケールの大きさに驚かされました。

西安空港からおおよそ200km北上し、11時半頃に、黄陵に到着しました。黄陵は、中国で確認されている最初の王朝の殷王朝よりも、遥かに昔の三皇五帝の時代に存在していたかもしれない、漢民族の祖とされる黄帝のお墓であります。また、中国文明の礎を築いた人物でもあり、中華民族の神様みたいな存在であります。

陵の入場料は大人90元ですが、「65歳以上の方」、「12歳未満の方」、「軍人」、「障害を持たれている方」は無料(ただし、保険料5元は別)でありました。



黄帝陵にて参加者とともに

今回の一行の中で、この条件に該当しないのは、私のみのため、私だけが入場料を支払うことになりました。無料と90元とでは、相当差があるんじゃないのかな、と内心思いましたが、バリアフリーが日本ほど進んでいないが、ご高齢の方にとって非常に優しい国になったなと思いました。また、15年くらい前に中国のこのような観光地に行った際には、記憶があいまいではありますが、10元くらいの入場料だったと思います。そうすると、この間にずいぶんと物の価格が上昇した感じがし、同時に中国経済の発展の著しさも感じました。以後、この旅では、「ご高齢の方無料」という観光地をいくつか目にするようになります。

黄陵は、麓の部分に中国の皇帝の使者や毛沢東、蒋介石等の書を写した石碑があり、山の高い場所には黄帝のお墓があります。高い場所へは、徒歩で登ることも可能ですが、我々は20元を支払いカートに乗って途中まで移動し、下車後、650mの距離を徒歩で移動しました。皆さんは私よりも人生のご先輩(失礼いたしました)であるにも関わらず、足取りが軽いこと。この時ばかりは、自分の日頃の運動不足や不摂生を実感しました。

黄陵を見学した後、13時過ぎに、遅い昼食を近くの食堂でしました。羊肉のラーメン(麺は日本蕎麦を太くしたものに似ています)もしくは牛肉のラーメン、厚揚げとキュウリの冷菜、骨付き肉が入った鍋料理、ジャガイモの細切り炒めといった豪華な料理を美味しくいただきました。



毛沢東と4人の仲間達の像

14時半頃に、次の目的地である延安に向けて出発しました。バスの中では、一行は黄陵で歩き疲れたため、寝入ってしまい、午前中の元気はどこやらという雰囲気。延安に近づくにつれて、車窓から、ヤオトン(山肌に掘った穴の住居)が目立ち始めてきました。

16時半に、100kmくらいの距離を走り、延安に到着しました。延安は毛沢東の長征が終了した場所であり、中国共産党の勢力が拡大化した町であるため、中国共産党の聖地とも言える場所があります。そのため、中国共産党や毛沢東に関する史跡が多く存在し、中国の政府関係者等の社会科見学の場にもなっています。

我々は、毛沢東を始め創設期の中国共産党の指導者の居宅や党の本部的な機能がありました^{なつめ}棗園を見学しました。名前のとおり園内には棗の木がたくさん生育しています。ちなみにナツメは延安の名物らしいです。毛沢東等の居宅はヤオトン形式であり、当時のままで保存されていました。

18時に棗園の見学を終え、延安市内に移動し、18時半すぎに、延安でも有数の銀海国際大酒店にチェックインしました。夕食はホテル内にあるレストランで羊肉の鍋、スーランタンの水餃子等を食しました。食後はたくさん食べたのでダイエットのつもりで、街中に繰り出し、途中で見た宝塔山のライトアップが綺麗であったため、「明日の午前中はそこに行きましょう」ということに決定し、この日の日程は終わりました。(続く)